

表通り裏通り

ボランティア への第一歩

月2回、市立博物館で行われている土曜体験教室。「博物館ジュニアボランティア」の皆さんが、同教室が円滑に行われるように手伝いをしています。7月14日は、ミニチュア山車作り。同ボランティアの皆さんが、活躍しました。



「難しいシールはがしは、ばくに任せて!」「ありがとう」



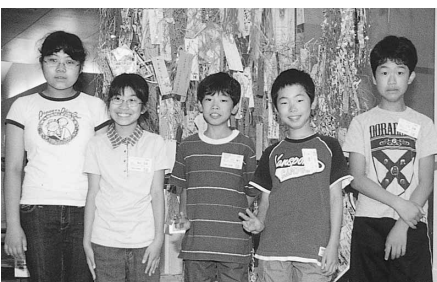
年長の高田茜さんを中心に受け付けを行います



午後の準備に大忙し



左：午後には、ボランティアのみんなも山車作り
右：工作で出たごみを、集めて回ります



左から、高田茜さん、高田彩香さん、大山くん、長峰くん、杉本くん

現在、「博物館ジュニアボランティア」には、市立博物館近くの小中学校に在学している小学五年生から中学一年生の八人が登録しています。当日は、五人のジュニアボランティアが、手伝いを行っています。

ジュニアボランティアに登録したきっかけは、「人の手伝いが好きで、昨年友達といっしょに登録しました」と姉妹で登録している姉の高田茜さん（12歳・志多町）。妹の彩香さん（10歳）は、「お姉ちゃんがいるので登録しました。物を配ったり、人が作るのを手伝ったりするのがおもしろいです」とボランティアが楽しそうです。

ジュニアボランティアの皆さんは、初めに参加者の受け付けを行い、出席の確認や工作に使う材料を配りました。教室が始まると、足りなくなった材料を運んだり、工作の手伝いをしたりと、周りを見回しながら、忙しく動き回っています。午前中、約二時間の教室が終わるまで、元気に手伝いを行いました。午後は、ボランティアをひと休み。ジュニアボランティアの皆さんもいっしょに、山車の製作をしました。午後の教室が終わり参加者が帰ったあと、ごみ拾いや机などの後片づけを行いました。

教室が終わったあとに感想を伺うと、「とても疲れたけれど、みんなにテープを配ったりして、喜んでもらい楽しかった」と、初めてのボランティアだった大山颯太くん（10歳・小仙波町二丁目）。「説明するのが難しかった」と、昨年に引き続き登録している長峰慧くん（11歳・小仙波町四丁目）。「シールをはがすのはいへんだっただけで、喜んでもらえてよかった」と、杉本真輝くん（12歳・宮元町）。

ボランティアとして、第一歩を踏みだした皆さん。とても生き生きとした顔が印象的でした。



一番街で声援に応える選手



舟橋市長にあいさつする松尾学長

一番街にあふれる笑顔

7月19日に、東洋大学硬式野球部の「東都大学野球春季リーグ戦優勝パレード」が行われました。蓮馨寺から一番街を通り、市役所本庁舎までのパレードには野球部員や松尾友矩学長をはじめ、総勢200人が参加。市役所に着くと校歌が斉唱され、高橋昭雄監督から舟橋市長に優勝報告が行われました。

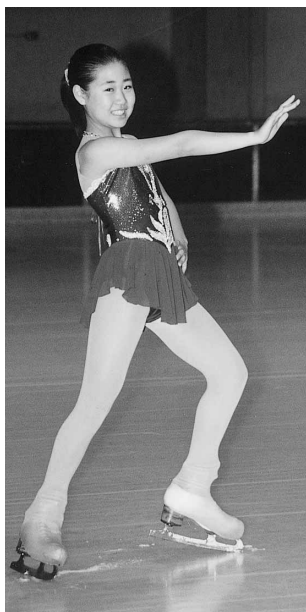
同野球部は、関東地区の21大学が加盟している東都野球リーグの1部に所属。4月から始まった同リーグ戦で、日米大学野球選手権大会に出場し勝利に貢献した大場翔太投手（22歳・鯨井）をはじめとする選手の皆さんの活躍により、平成12年秋季以来、13季ぶり10回目の優勝を完全優勝で飾りました。「チームワークがとてもよく、優勝できました。過去に2季連続優勝をしたことはないもので、秋季も優勝を目指します」と主将の藤田敏行さん（21歳・鯨井）は、力強く話していました。

全国大会でも優勝だ！

川越大東小学生バレーボールクラブは、142チームが参加し、5月から7月にかけて行われた、「第27回全日本バレーボール小学生大会埼玉県大会」の女子の部で、11試合を勝ち抜き初優勝しました。8月には、東京都で行われる全国大会へ出場します。「県大会では優勝を狙っていました。全国大会でも優勝したいと思います」と主将の山崎詩奈子さん（12歳・増形）は、元気よく話していました。



7月27日、舟橋市長に優勝報告を行った、同クラブの皆さん



手作りの衣装を着て、ポーズを決める加藤さん

「練習を頑張つて、三回転ジャンプの成功率を上げたいです」と目を輝かせて話す加藤さん。ことし十月に八戸市で行われる同大会では、Aクラス（小学六年生・中学一年生）に出場し、入賞を目指します。

「練習を頑張つて、三回転ジャンプの成功率を上げたときに、もっと滑りたいと思いますスケートを始めました。現在は、市内民間スケート場で、週六日、一日に三時間から七時間ほど、ジャンプなどの練習を行います。今は、五種類の三回転ジャンプを練習中です。スケートをしていて楽しいと感じるのは、演目の曲に合わせて母の敦子さん（41歳）が作ってくれた衣装を着て、試合でジャンプやスピンの失敗をせずに滑り終えたときです。

「練習を頑張つて、三回転ジャンプの成功率を上げたときに、もっと滑りたいと思いますスケートを始めました。現在は、市内民間スケート場で、週六日、一日に三時間から七時間ほど、ジャンプなどの練習を行います。今は、五種類の三回転ジャンプを練習中です。スケートをしていて楽しいと感じるのは、演目の曲に合わせて母の敦子さん（41歳）が作ってくれた衣装を着て、試合でジャンプやスピンの失敗をせずに滑り終えたときです。

加藤玲海さん（11歳・東田町）

かわごえ 越 びと 38